

メジナ類

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館



幼魚から育てられたオキナメジナ

(水槽番号41111)

31

山本 泰司

メジナは関西ではグレと呼ばれ、代表的な磯魚である。とくに釣りの対象魚として人気が高く、

は50センチを超すものもいる。釣り人が求める40センチは少なくとも8歳を超えているようだ。

春に潮だまりで群れている数センチにも満たないグレの子はすべてクロメジナだ。

オキナメジナは南方系でウシグレとも呼ばれる。波の荒いさんご礁の外縁で単独生活をしてい

てほかのグレの幼魚に交じって見られる。

メジナとクロメジナはよく似ていて、なかなか見分けにくい。50年近く前の話になるが、日本の魚類生態学のパイオニアとして知られる奥野良之助さんが、両種の幼魚の群れ行動を田辺湾周辺で潜水観察したことがあった。観察を前に奥野さん

3種とも紀南に生息

冬場は寒グレと呼ばれる脂が乗っておいしくなる。

串本産のメジナの成長と年齢についての研究報告によれば、産卵期は4

月で、満1歳で全長15センチ、3歳で25センチ、6歳で33センチ、最終的には41センチに達するとのことである。成長には個体差があり、最大で

ロメジナは、オナガとかコハダ(うるご)が細かいの意)とも呼ばれる。3種の中では最もスマートな体形をしており、最大

ることから、縄張りを持つているとも言われている。分厚い上唇と幅広い口が特徴で、細かな藻類をこそぎ取って食べる。

全長は80センチに達する。メジナは日本海にもいてやや内湾的な環境に多いが、クロメジナは荒磯や沖合の岩礁周辺に多い。産卵期は11、12月で、冬

幼魚には体の真ん中に1本の黄色い線があるが、成長に伴って不明瞭(めいりょう)になる。白浜水族館周辺では、少ないが、夏〜秋に潮だまり

は、白浜水族館で両種の展示した水槽の前に座り込み、瞬時に見分けられるよう目を慣らしたという。白浜水族館では、これら3種とも2つの水槽と屋外プールで飼育しているので、違いを見比べてみてはいかがだろうか。(京都大学技術職員)